

平成 21 年 3 月 21 日

## 「原子力」「省エネルギー」「再生可能エネルギー」の三本柱で 世界をリード

東京電力株式会社 取締役会長 勝俣恒久

「原子力」・「省エネルギー」・「再生可能エネルギー」が低炭素社会実現の三本柱である。特に、原子力立地の円滑な推進と既存原子力発電所の設備利用率向上が重要。また、高効率ヒートポンプ、電気自動車、石炭ガス化複合発電（IGCC）、超電導送電等の「低炭素革命」のエネルギー革新技術開発・普及を強力に推進し、世界をリードすべき。

そこで、景気対策、地域活性化、雇用創出等の観点から、比較的短期に効果が見込まれる具体的施策を以下のとおり提案したい。

- ① ヒートポンプ高効率給湯機（エコキュート）の普及支援強化  
→ 補助金空白期間の解消、補助単価拡大による普及加速
- ② 電気自動車の官公庁等での積極的導入および支援  
→ 電気自動車、蓄電池製造ラインへの本格投資を喚起
- ③ 官公庁旧式空調機等の一斉更新  
→ グリーン霞ヶ関、グリーン県庁等の実現前倒し
- ④ 産業分野における省エネルギー対策の支援  
→ エネルギー計測支援、産業用ヒートポンプ導入支援
- ⑤ 外部電源式アイドリングストップ給電システムの導入支援  
→ 長距離トラックのアイドリング冷暖房時CO<sub>2</sub>排出を98%削減
- ⑥ 超電導送電、洋上風力発電等の革新技術開発支援  
→ 中長期的観点から革新技術の開発支援を継続実施
- ⑦ 「森の町内会」方式による森林育成・林業再生への支援  
→ 間伐の仕組みづくりを全国展開する人材集団の結成運営支援
- ⑧ 小中学校の理科設備の整備・充実による低炭素社会を担う人材育成  
→ 理科教育の拡充を機に、全額国庫補助による実験機材等の確保

以上